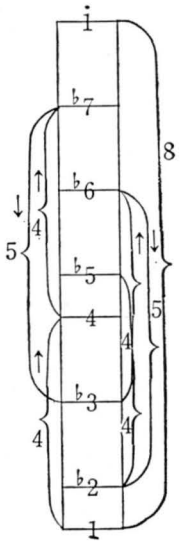
テ指示スル如シ

(甲)



抑俗曲中ニ往々此種類ノモノアリトイヘトモ田舎ノ童謡等ノ如キ風俗歌中ニハ或ハ決シテ此ニヨラズシテ却テ自然音階ニ近似セルモノアリ故ニ斯ノ如キ音階ヲ以テ本邦固有ノ音階トハ為スベカラザルナリ

音律ハ生活物ノ所用ニ属スルヲ以テ演奏ノ際自然ノ変化ヲ来スハ数ノ免レザル所ニシテ従来ノ研究ニヨレバ其律次第ニ上騰スルハ信シテ疑ハザルトコロナリ故ニ今日壹越ト称スル所ノ律モ数百年ノ後ニハ今日ノ断金ニ等シキニ至ルベク又今日ノ黄鐘ハ古昔ノ黄鐘ニ等シカラザルハ唯理論上ニ然ルノミナラズ其證憑分明ナリトス然リ而シテタトヒ音律ハ斯ノ如ク変シ易キモノナルモ其調子ノ取方ニ至テハ千古不変ナルモノトス即チ壹越ノ律ヨリ黄鐘ノ律ニトルガ如キハ壹越ノ律上騰スレバ黄鐘モ亦隨テ上騰スベク其四音五音ノ関係ヲ有スルハ未ダ曾テ変ゼザルトコロニシテ天下普通ノ大理ナリ其詳細ノ如キハ次項ニ就テ更ニ之ヲ證論スベシ

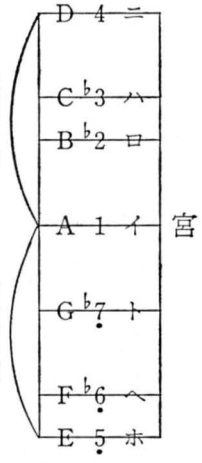
(四)「希臘音律ノ事」

音樂ハ史冊ニ由ラズシテ樂曲又ハ樂器ニ由リテモ亦能ク其系統血脈ヲ推究スルヲ得ベシ其理例ヘバ地質學上ニ於テ太古ノ時代ニ属シタル生物ノ化石ト為リテ今日見ルベキモノアルトキハ之ニ因テ數百萬年ノ往時ヲ眼前ニ提出スルヲ得ルカ如シ抑音樂上ノ化石トモ云フベキハ音階ナリ音階ヲ以テハ有史以前ノ太古ニ属スル事情モマタ之ヲ一目ニ證認スルヲ得ベシ然リ而シテ音樂史上古代ニ属スルモノ甚ダ多シトイヘドモ之ヲ證明スルノ最モ確切著明ナルモノハ即チ希臘ナリ

希臘ニテ最モ古キ楽器ハ「ライル」ナリ「ライル」ノ絃ハ初メ四筋ニシテ此樂器演奏ノ際ハ之ヲ左ヘ抱ヘ持チ右手ニテ彈ゼシモノナリ其絃四筋ナルヲ以テ又之ヲ「テトラコルド」(四絃琴)ト称セリ即チ太古ハ此四絃ノモノナリシカ中古ニ至リ一變シテ七絃ノモノト為リタリ希臘ニテハ中絃ヲ宮ト為ス即チ宮ハ常ニ拇指ヲ用ヒテ之ヲ彈シ次ニ食指ヲ用ヒタルモノヽ如シ

太古希臘ノ樂器は此ノ如ク粗末ナルモノナリシガ他ニマタ我箏築ニ類似シタルモノアリナホ其他二三ノ樂器モアリトイヘトモ其最モ貴重セシモノハ此「ライル」ナリ但シ此ニ於テ專ラ講究スルヲ要スル所以ノモノハ樂器ニアラズシテ其律ノ取方ニアリ故直チニ其要點ニ進ムベシ抑此樂器ニ於ケル律ノ取方ハ之ヲ音階ニ構成シテ解明スレバ即チ左ノ如キモノト為ル

合接法印
小全法

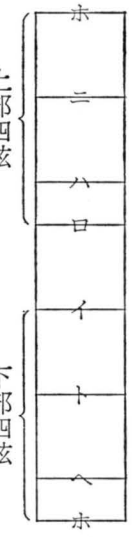


上記スル所ハ希臘最古風ノモノナリ

此ニ一ノ奇異ナル事アリ前項ニ講述シタル所ノ音階中ニ於テ此音階ト符合スルモノアリ即チ俗樂ノ乙種音階是ナリ

夫レ雅楽ノ音階ハ支那ヲ経テ印度ヨリ傳リタリトスルモ俗樂音階ニマタ此ノ如ク符合スルアルハ豈奇ナリト云ハザルベケンヤ今試ミニ其理由ヲ述ベン蓋シ此希臘ノ音階ト現今本邦人ノ俗曲ニ用フル音階ト相同ジキハ是レ即チ音樂ノ人性自然ニ基ク所以ニシテ彼此ノ二國音樂ノ大源ヲ一ニシ其進度ヲ同ウスル所以ナリトセザルヲ得ザルナリ但シ律ノ取方ニナホ一種ノ方法アリ左ノ如シ

開接法即大全法



前ノ音階ハ四絃ヲ交組即合接シテ連接シタルモノナルニ此音階ハ粗組即開接シタルモノナリ約シテ其別ヲ云ハヽ前ニハ音階ハ七音ヨリ成リ此ニハ八音ヨリ成ル即チ實際樂器ニ一絃ヲ加ヘ名ツクルニ一新名ヲ以テセリ

曩ニ昌平館ニ於テ音楽取調ノ成績報告ノ際講説シタル圖解ハ即チ此大全法ニ於ケルモノナリ抑希臘ノ音樂ハ大ニ粗ナル所アルヲ免レズトイヘトモ今代樂ノ基本ナレバ研究スルニ足ルベキモノナリ本邦雅樂ノ音階モ俗樂ノ音階モミナ此希臘音階中ニナキモノハ更ニ之ナシ即チミナ既ニ希臘ノ音階中ニ包有セリト云テ可ナリ猶音樂浴革大綱ノ條参照アルベシ遠ク之ヲ史乗ニ徴シ又之ヲ理論ト実際トニ照ラシテ之ヲ考フルニ到底帰スル所音階ナルモノハ如此モノニテ天然自然ニ出ルモノナレバ此理ヲ外レテ出来ベキ理由アル事ナシ其情恰カモ酸素ト水素ト結合シテ水ヲ成スガ如ク水酸二素ハ何ヲ以テ水ヲ成スヤ其成ル理法ニ於テハ人智ノ得テ知ルベカラザルトコロアリトイヘドモ其水ノ成ルハ事実ノ證スル所ナリ音階モ亦然リ此音階ノ成ルハ如何ナル理ナリヲ知ル可ラズト雖トモ其実古今東西ヲ問ハズ決シテ相異ナリタル方法ニ由テ成ルニアラサルナリ唯其少シク相異ナリトスベキハ其宮トスルトコロヲ異ニスルアルノミ然レドモ是レ敢テ音階ノ異ナルニハアラズ宮トマルトコロノ異ナルハ其曲調ノ剛柔勇否ノ度ヲ異ニスルニ因ルモノニテ所謂音樂ノ進歩ニ帰因セリ蓋シ宮ハ即チ樂曲ノ主将ナレバ此主将ノ柔弱ニシテ其樂曲ノ勇壮ナルヲ致スベキ理由ナシ彼ノ羅馬希臘等ニ於テモミナ既ニ音階ノ柔弱ナルニ困シミ勇壮ナル人民ヲ作ランニハ勇壮ナル樂曲ヲ用ヒザルベカラザルヲ悟リシモノヽ如シ當時樂曲ノ主音即チ宮ノ一大勢力ヲ存シ樂曲ヲシテ勇壮ナラシムルニ適スルモノヽミヲ選ミ以テ遠ク今代樂ノ源ヲ發セシハ亦疑ヲ容レザル所ナリ

附希臘古樂「アポロ」讃歌[1]發見ノ事

(1) 音楽取調掛員が〈アポロの讃歌〉として音律の研究に取り組んだこの曲は、メソメディスの三つの讃歌の一つ〈大陽神〈リオス〈の讃歌〉であった。これはチャペル William Chappell (1809-1888) の原書 The History of Music (Art and Science), Vol.1 においてすでに間違っていたもので、A. Schering: Geschichte der Musik in Beispielen で確認することができた。

希臘古樂ノ今代樂ニ須要ノ関係ヲ有スルハ前段縷述スルカ如シト雖トモ其樂曲ノ今日存在シテ研究ノ資料トナルベキモノ甚少ク正真ノ希臘樂トシテ信ヲ置クベキモノハ全世界中唯二三曲ニ過ギザルノミ此「アポロ」ノ讃歌ハ古昔希臘人カ美術ノ神トシテ信敬シタル「アポロ」ノ德ヲ頌シテ作リタルモノニシテ実ニ二千有餘年前ノ古

樂ナリ抑モ此曲ノ始メテ世ニ知ラレタルハ西暦一千五百八十一年ニ於テ有名ナル天文學士ガリレオノ父ヴィンセンツ、ガリレオガ以太利國羅馬ノ「カーヂナル、セント、アンゼロ」ノ書庫ニ希臘曲ノ寫本アルヲ發見シ之ヲ其著書中ニ載セタルニ因レリ其後第十七世紀ノ頃英國にマーク、メーボムナルモノアリ同國オックスホルド學士社會ニ希臘文學及ビ音樂ヲ振興スベキ企アルニ際シ希臘有名ノ音樂家ノ作ヲ蒐集シテ一書ヲ著サン事ヲ謀リ大ニ諸家ノ助成ヲ得タリシガ遂ニ果サズ博士ジョン、ワリス其遺業ヲ継ギ一千六百九十八年頃ニ至リ始メテ著書ヲ完成セシガ其中ニ亦「アポロ」ノ讃歌ヲ載セリ又佛國ニブレットナルモノアリ巴里府佛王書庫中ニ希臘古樂ノ寫本ヲ發見シ一千七百二十年ニ至リ之ヲ或ル学社ノ報告書中ニ載セタリシガ「アポロ」ノ讃歌ハ即チ其一ナリキ是レ歐洲ニ於テ此曲ヲ傳来シタル略史ナリ

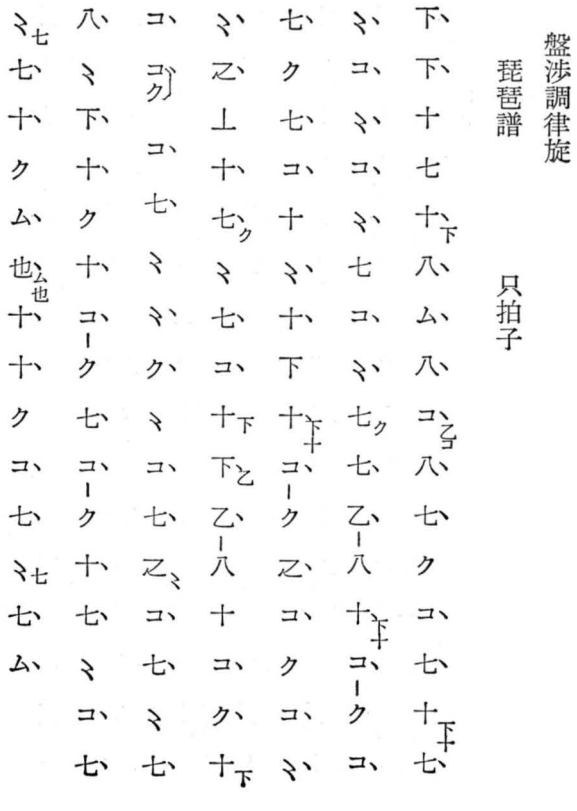
本邦ニ於テハ明治十三年本掛長此曲ヲチャペル氏音樂史中ニ得爾後其旋律ノ方法等ヲ研究セシニ元来希臘古樂ノ調律及ビ旋律ノ理論等は実ニ本邦ノ音樂ニ符合シ此曲ハ我盤渉調ニ當ルモノナルヲ發見セリ依テ取調掛員芝葛鎮ニ謀リ全ク本邦雅樂ノ法則ニ據リテ之ヲ調和シ三管二絃ヲ用ヰテ之ヲ奏セシメシニ其律呂ノ旋法ノ如キ殆ド彼我ノ別ヲ知ル能ハザルニ至レリ是レ我音樂ハ啻ニ理論ニ於テ欧洲ノ古樂ト其趣ヲ同クスルノミナラズ実際ノ奏曲ニ至リテモ亦大ニ異ナルトコロナキヲ證スルニ足ルモノナリ

希臘「アポロ」讃歌本邦楽器譜

琵琶　箏　鳳笙　篳篥　龍笛

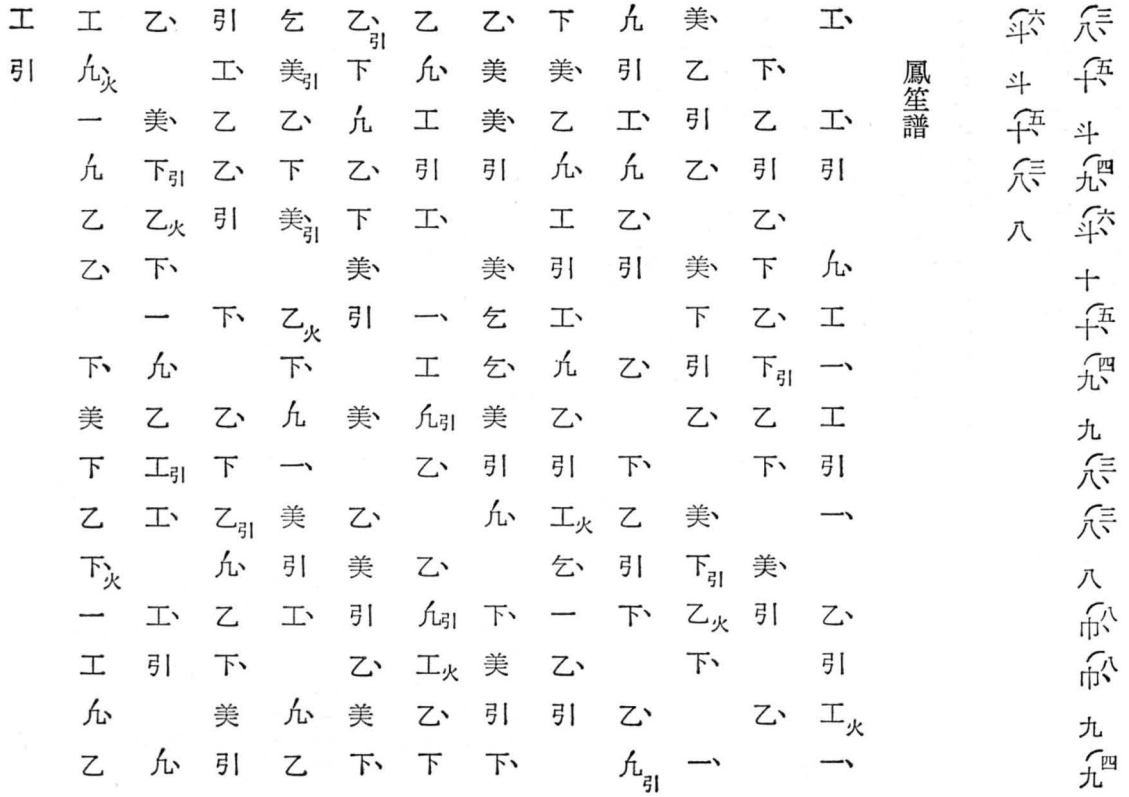
盤渉調律旋

琵琶譜　只拍子

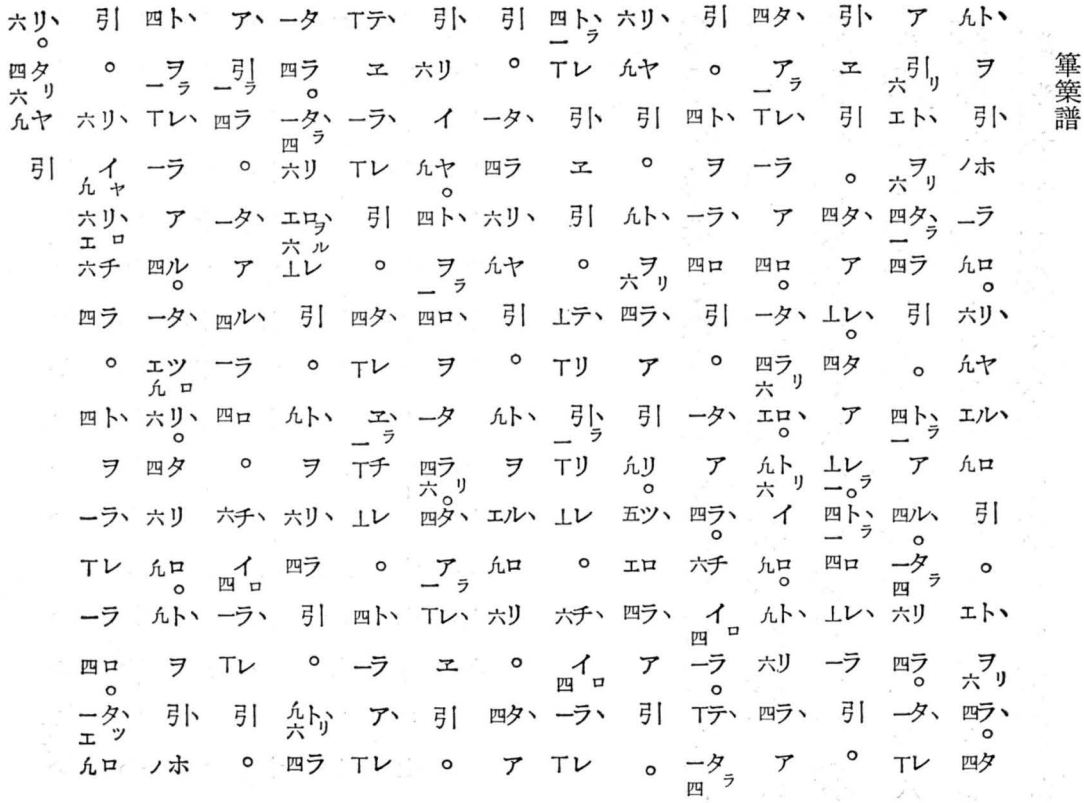


箏譜

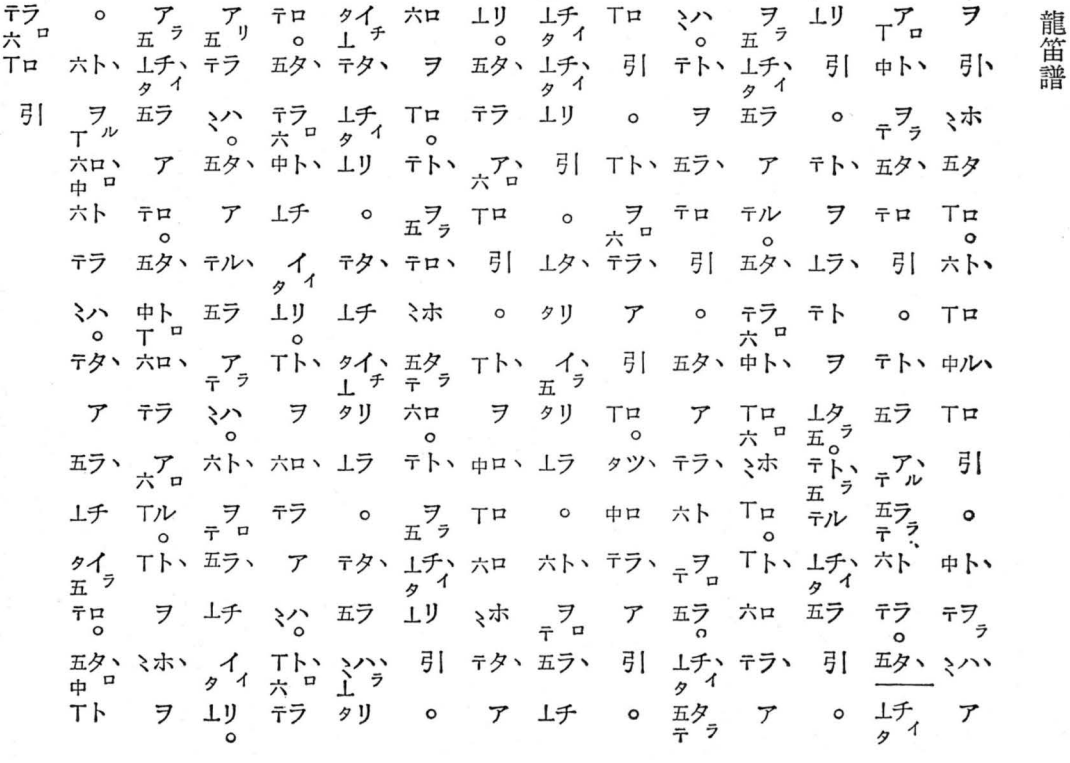
鳳笙譜



篳篥譜



龍笛譜



〔伊澤修二、希臘古楽〈アポロの讃歌〉を発見した時の短歌二首〕

（アポロは希臘人の尊崇したる美術の神なり）

聞けアポロ
二千年余の
後の世に
調べる琴の
音やは
乱るゝ

希臘古来の四絃琴の我旋法と同じきを見て

希臘も日本も
同じこゝ路ねを
こめて伝へし
四ツの緒琴に

修

（自筆巻紙片一通、長野県上伊那郷土館蔵）

（五）「音楽沿革大綱」

インゲルノ説ニ據ルニ欧洲ノ音楽ハ之ヲ希臘ヨリ傳ヘ希臘ハ之ヲ埃及ヨリ傳ヘ埃及ハ之ヲ印度ヨリ傳ヘタリト云ヘリ而シテ本邦ノ音楽ハ之ヲ支那ヨリ傳ヘ支那ハマタ之ヲ印度ヨリ傳ヘタリ其間多少變出轉生ニ係リ且事ノ頗ル太古ニ属スルヲ以テ或ハ未タ直接ノ関係ヲ詳カニセザルアリトモマタ間接ノ餘流ヲ汲ムニアラザルハナシ故ニ東西ノ音楽ハ印度ヲ以テ共同ノ大源トスベシ抑印度ノ音楽ノ埃及ニ傳ハリシハ「アリヤ」種族ノ一部ガ西移ノ際ニ在リ即チ印度語ノ欧